第６回
新潟地区国立病院薬剤部科合同勉強会

西新潟中央病院　薬剤部　**青山　大樹**

はじめに

令和元年10月26日（土）、第６回新潟地区国立病院薬剤部科合同勉強会を開催致しましたのでご報告致します。

今年の参加者は、西新潟中央病院（以下当施設）、新潟病院、さいがた医療センターの薬剤師、当施設の実習生、谷地薬事専門職、山口国立がん研究センター中央病院薬剤部長（関信地区薬剤師会会長）、また独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）相模野病院より樋口薬剤部長など、県外からの先生方も含め総勢27名の参加となりました。

勉強会の様子

令和最初の勉強会となりました今回は、天候には恵まれないにもかかわらず多くの先生方にお越しいただきました。まず勉強会の開催に先立ち、さいがた医療センター伊東秀幸先生より開会の辞、当施設の千田昌之先生から幹事施設長挨拶を行いました。講演は二部構成で、内部講師として当施設薬剤部の小金澤佑太先生、外部講師として社会医療法人新潟勤労者医療協会下越病院薬剤課より三星知先生をお招きしました。

第一部では、「西新潟中央病院の取り組み」として、小金澤先生より当施設の紹介を行いました。全国で７か所ある拠点病院の１つにもなっているてんかん領域、またパーキンソン病や神経難病をはじめとした脳神経系、肺がんや結核をはじめとした呼吸器系の診療科を持つことが紹介されました。脳神経系では神経難病の患者を対象とし、県から受託された療養介護事業施設「さくら」や、土日も休まず受け入れている重症心身障害児者通所支援事業の「あかしあ」など他にはない特色の説明がありました。てんかん、特に視床下部過誤腫の手術は国内だけでなく、ロシア等の海外からも患者を受け入れており、国際的にもなくてはならない病院となっていることを確認することができました。

呼吸器系の部門としては新潟県内で唯一の結核病棟があることや睡眠時無呼吸症候群の治療設備を有していることの紹介がありました。肺がん領域では市民講演会を定期的に開催し、肺がんの病態、治療法、食事や日常生活の注意点などをわか

第一部「西新潟中央病院の取り組み」

第二部「研究を具体化してエビデンスを作る体系的な方法」

ディスカッション

りやすく説明するなど、地域に根ざした医療を提供している病院であると紹介がありました。

その他、病院祭やコンサートの救護所ボランティア、新潟祭りなどのイベントにも積極的に参加し、患者さんだけでなく地域住民の皆さんとの交流も盛んに行っている病院であると紹介されました。

病院の敷地内には新潟医療技術専門学校・西新潟中央病院キャンパスが開設され、医療人の育成にも積極的です。当施設は「地域にとって、新潟にとって、なくてはならない病院」であると再認識することができました。第二部では三星先生より「研究を具体化してエビデンスを作る体系的な方法」として講演をしていただきました。今回の講演は、この勉強会で、初めてとなるグループワーク形式で行われました。グループ編成はくじ引きにより決められ、１グループ４～５名で、部科長をリーダーとし、中堅、若手薬剤師と幅広い年齢層でグループを構成されました。エビデンスの構築には、①研究の具体化、②論文の執筆、③学会発表などが重要であることを学びました。さらに、エビデンスの構築を向上させるうえで、日ごろからクリニカルクエスチョンを意識し先ほど挙げた①～③の実践経験と、反復練習が、大切であることがわかりました。また、新しい研究のアイデアは、読んだ論文の数に依存するため、数多くの論文に触れ、勉強することが必要であることを痛感しました。また研究のモチベーションは、実際の現場で起こっていることや気になることから生まれ、研究テーマの基となるクリニカルクエスチョンを考える際には、施設の特色や、薬剤師としてのこだわりからできるものが多いことを実体験に基づき説明をしていただきました。その後は、研究テーマとアウトカムの設定を行い、どのようなことを比較するか、また、統計解析の手法の決定までのプロセスを３部構成で行いました。その際に実際にグループごとで議論し、まとめた意見をセッションごとに発表し、研究、学会発表が未経験の若手薬剤師の考えたテーマに対し、リーダーを中心とした他の薬剤師からの経験をふまえた的確なアドバイスにより、研究をより具体性のある実現可能なものに昇華することが出来ました。実際に、その内容も「散剤調剤時の他薬剤による汚染は、どのような除去方法が効率よく防げるか」といった、県内３施設に共通した問題をテーマにしているグループもありました。

本講演では、それぞれのグループで役職、職歴に関係なく活発な意見交換が行われ、交流を図れたとともに和やかな雰囲気の中にも緊張感を持った議論が出来ました。

勉強会終了後は山口先生からの感想をいただき、新潟県内３施設の全体会議、谷地先生の業務連絡を経て、新潟病院の磯山賢先生の辞にて閉会となりました。

懇親会の様子

勉強会後には恒例となっている懇親会を、新潟市内にある「餃子日和 わらん」で行いました。この懇親会には勉強会に参加された先生方のほと

山口先生より総評

んどが参加され、和気あいあいとした雰囲気で行うことができました。施設ごとの部科員紹介が行われ、普段なかなか情報交換する機会のない他施設の先生方とそれぞれの自施設の課題や、取り組みについての話があり、施設ごとの取り組みの違いや共通の課題について意見交換を行うことができました。

感想

前年度は、実行委員でありながら他の実行委員の先生方に頼ってばかりであまり力になれませんでした。今年は主幹病院の委員として、当施設薬剤部 村上先生の指示を仰ぎながら、開催に向けた準備を進めることができました。今回は、前年度までとの違う試みとして、グループワーク形式での勉強会を行いました。提案があった段階ではどのように行っていくのか予想ができず、新しい試みに対しての不安もありましたが、合同勉強会の実行委員の先生方の協力もあり、無事に行うことができました。今までこのような勉強会等の主催側に立った経験がない私にとっては、とても大変であり反省ばかりが残ってしまいましたが、「良い会だった」、「またやってほしい」、「モチベーションが上がった」とのアンケートの結果でもテーマへの興味や研修内容の評価も良いとの意見を多くいただき、とても励みになりました。実際の勉強会では私自身、論文執筆はおろか、学会発表等もおこなった経験がなく統計や実務研究も大学での講義以降勉強しておらず、研究をあまり理解できていませんでした。今回の勉強会では研究に対する考え方、進め方、手法や論文化へのノウハウなど、なかなか教わることのない分野を改めて学ぶことができ、学生の頃学んだ時より、より現実味を帯びていたためとても有意義な勉強会になりました。そのあとの懇親会には谷地薬事専門職、山口関信地区薬剤師会会長、外部講師の三星先生をはじめとした多くの先生方に参加していただくことができました。懇親会では多くの先生方の様々なお話を聞くことができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。

今後の展望

本勉強会も今回で第６回を数えることとなりました。今年は新潟地区に所属した先生方を中心に27名もの参加者を募ることができ、新潟県外からも多数の先生方に参加していただくことができました。しかしながら、日程等の都合がつかずご参加できない先生も多数おられ、毎年の課題ではありますが開催時期については来年度以降も引き続き検討していく必要があると感じました。アンケートにも様々なご意見をいただき、より早い広報活動等、今後に生かせていけたらと思います。また来年度以降も多くのご参加をいただくために、勉強会の日程、内容等を再考し、より県外の先生方に興味を持っていただけるようなものにしていきたいと思います。

最後に

本勉強会の開催にあたりましては、さいがた医療センターの新保先生、当施設の村上先生の人脈のおかげで、外部講師として三星先生のご講演に参加する機会を持てたことがうれしく思いました。また委員の先生方の勉強会開催に対する熱意や行動力、人のつながりを大切にする姿勢など学ぶことが多くありました。

本勉強会の開催にあたりまして、実行委員の新潟病院 花垣先生、池田先生、さいがた医療センター 新保先生ならびに開催にご協力いただいた先生方にこの場を借りて感謝を申し上げます。来年度はさいがた医療センターでの開催になりますので、県内のみならず県外からもご興味のある先生方のご参加をお待ちしております。